

USDA 作付意向調査のインパクトを検証する

by Eiki Matsumoto

米農務省は3月31日、農家への聞き取り調査に基づく08/09年度の作付意向調査を発表した。コーン作付が前年から8.10%と大きく減少するのに対し、大豆の作付は前年比で17.54%増加、過去最高だった06/07年度に迫る内容となった。市場ではエネルギー高で肥料価格が上昇するなど生産コストの高さや、コーンを連作することで土地が痩せイールドが下がることを嫌気して、多くの農家がコーンから大豆など他の作物への転作を進めると見られていたが、事前の予想を遥かに上回る内容となっている。

コーンの数字はどれだけ強気なのか、また大豆は作付増によってはたして需給が緩和されるのか。今回発表された数字を基に色々と検証してみたい。

コーンの減少分以上に大豆作付が増加

下の図は、コーン、大豆、小麦作付の前年からの増減を表にしたものである。州別の詳細データを見ると、コーンから大豆への転作が進んだことは一目瞭然だ。また、大豆の作付はコーンの減少分以上に大きく増加しているが、これは米国の農産物全体の供給が不足していることを受け、新たな農地開拓や休耕地の再活用が進んだことが背景にあるのだろう。

コーン、大豆、小麦作付の前年からの増減

	作付減 コーン	作付増			全体の増減	*転作状況
		大豆	冬小麦	春小麦		
全米	7.586	11.162	1.853	1.036	6.465	3.576
アイオワ	1.000	1.250	0.010	-	0.260	0.250
イリノイ	0.600	0.600	0.200	-	0.200	0.000
ネブラスカ	0.600	1.200	0.100	-	0.500	0.600
ミネソタ	0.800	0.850	0.005	0.200	0.255	0.050
インディアナ	0.800	0.800	0.130	0.070	0.200	0.000
サウスダコタ	0.350	0.900	0.200	0.250	0.600	0.550
カンザス	0.000	0.600	0.500	-	0.100	0.600
ウィスコンシン	0.400	0.300	0.040	0.011	0.049	0.100
オハイオ	0.500	0.350	0.200	-	0.050	0.150
ミズーリ	0.350	0.600	0.150	-	0.400	0.250
ミシガン	0.300	0.250	0.170	-	0.120	0.050
ノースダコタ	0.300	0.500	0.185	0.250	0.635	0.200
テキサス	0.100	0.114	0.200	-	0.014	0.014
ペンシルバニア	0.020	0.020	0.030	-	0.070	-
ケンタッキー	0.220	0.230	0.120	-	0.130	0.010

*転作状況 緑:コーンの減少以上に大豆が増加 出所:米農務省 単位:100万エーカー
黄:大豆の増加はコーン減少分以下

コーン価格の上昇は避けられない

では、今回のコーン作付推定が一体どの程度強気なのかを検証してみよう。次の表は今回発表された作付データを基に、実際のイールドによって 08/09 年度の期末在庫がどのように変化するのかを示したものである。なお、需要面の数字は2月のUSDAアウトルック・フォーラムで発表された推定をそのまま使用している。

- USDA 作付意向の推定を基にした 08/09 年度コーン需給推定 -

イールドシナリオ	10年来最低	10年平均	前年並み	2月推定	10年来最高	07/08年
作付面積	86.0	86.0	86.0	86.0	86.0	93.6
収穫面積	79.1	79.1	79.1	79.1	79.1	86.5
イールド	129.3	142.3	151.1	154.9	160.4	151.1
期初在庫	1,438	1,438	1,438	1,438	1,438	1,304
生産	10,232	11,261	11,957	12,258	12,693	13,074
輸入	15	15	15	15	15	15
総供給量	11,685	12,714	13,410	13,711	14,146	14,393
飼料および残余	5,400	5,400	5,400	5,400	5,400	5,950
食用、種子、工業需要	5,470	5,470	5,470	5,470	5,470	4,555
- エタノール	4,100	4,100	4,100	4,100	4,100	3,200
国内消費	10,870	10,870	10,870	10,870	10,870	10,505
輸出	2,150	2,150	2,150	2,150	2,150	2,450
総消費量	13,020	13,020	13,020	13,020	13,020	12,955
期末在庫	1,335	306	390	691	1,126	1,438
在庫率	-10.25%	-2.35%	3.00%	5.30%	8.65%	11.10%

出所: 米農務省 単位: 100万ブッシェル、100万エーカー、ブッシェル/エーカー

これによると、イールドが 04/05 に記録した過去最高の 1 エーカー 160.4 ブッシェル並みの大豊作になったとしても、期末在庫は前年を下回り、在庫率が 8.65%と 10%を大きく割り込んでしまう。2月のイールド推定を使うと在庫率は 5.30%、前年並みのイールドになったとしたら 3.00%まで下がってしまう。それよりも低い過去 10年の平均のイールドを使うと、在庫はなんとマイナスになってしまう。

もちろん、イールドが大きく低下すれば価格が急騰し需要も大きく落ち込むため、この推定のように在庫が底を尽いてしまうことはないだろう。2月の推定では価格上昇を受け飼料需要や輸出が前年から減少するとしているが、エタノール需要だけは前年比で 28.1%も伸びると予想している。原油価格の推移との兼ね合いもあるが、このあたりが大きく落ち込むことになりそうだ。

過去最高の豊作になったとしても在庫率が 10%を割り込んでしまうような状況は、いずれにしても異常だと言わざるを得ない。この先実際の作付が大幅に増えることにならない限り、コーン価格が上昇を続けるのは避けられそうにないだろう。

大豆需給はイールドと輸入動向次第

同様に大豆の需給についても検証してみた。07/08年度の期末在庫は03/04年度以来の低水準に落ち込むと見られているが、果たして08/09年度はどうなるのだろうか。

- USDA 作付意向の推定を基にした08/09年度大豆需給推定 -

イールドシナリオ	10年来最低	10年平均	前年並み	2月推定	10年来最高	07/08年
作付面積	74.8	74.8	74.8	74.8	74.8	63.6
収穫面積	73.8	73.8	73.8	73.8	73.8	62.8
イールド	33.9	39.4	41.2	42.1	43.0	41.2
期初在庫	140	140	140	140	140	574
生産	2,503	2,909	3,042	3,109	3,175	2,585
輸入	6	6	6	6	6	6
総供給量	2,649	3,055	3,188	3,255	3,321	3,165
> 压榨需要	1,860	1,860	1,860	1,860	1,860	1,835
> 輸出	910	910	910	910	910	1,025
> 種子、残余	177	177	177	177	177	165
総消費量	2,947	2,947	2,947	2,947	2,947	3,025
期末在庫	298	108	241	308	374	140
在庫率	-10.10%	3.68%	8.19%	10.45%	12.70%	4.63%

出所：米農務省 単位：100万ブッシェル、100万エーカー、ブッシェル/エーカー

作付が04/05年度に記録した過去最高に迫る水準まで増えることを受け、前年並みのイールドを確保できさえすれば、ひとまず需給逼迫感も解消するだろう。2月の推定である1エーカー42.1ブッシェルのイールドを実現すれば、在庫率も10%を上回ると見られる。

しかしながら、イールドが40ブッシェルを割り込むようなら注意が必要、今年度以上に需給が逼迫する恐れが高い。過去10年の平均イールドが39.4ブッシェルであることを考えれば、生育期の天候次第ではあってもおかしくない数字だ。

また、輸出動向も大きく需給バランスを変えてしまう可能性がある。08/09年度の輸出は前年を1億1,500万ブッシェル下回ると予想されているが、中国を中心に世界の需要国からの引き合いは依然として強い。もし輸出が前年度並みの水準まで伸びるようなら、よほどの高イールドを実現しない限り在庫率は10%を割り込んでしまうだろう。

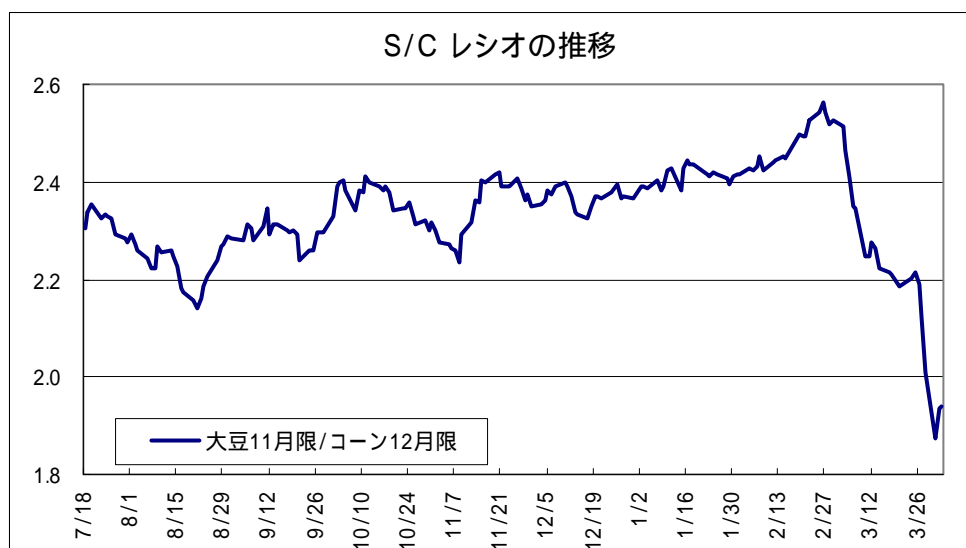
このように大豆の場合は、全てが順調に進めば需給も緩んでくるが、夏場の高温乾燥気候によってイールド低下したり、中国を中心に輸出が好調なペースを維持したりすれば、たちまち危険水域に入ってくると予想される。また足元の在庫が逼迫しているだけに、そうした可能性があるということだけで市場の不安を掻き立て、結果的に買いが集まるようになる、更には、現在の価格差を受けて最終的にコーン栽培を選択する農家が増え、実際の作付が減ってしまうことも十分に考えられる。少なくとも、今回の結果で安心している場合ではないことだけは確かなようだ。

S/C レシオは3月に入って急低下

今回の作付意向というのは、あくまでも農家に対し今年は何を栽培するつもりなのかについての聞き取り調査の結果をまとめただけであり、実際にこの通りの作付が行われるわけではない。価格動向や今後の天候によって変わってくる可能性も十分に考えられる。

今回はコーンから大豆への転作が進んだわけだが、農家がこの両者のどちらを栽培するかを決定する目安として良く用いられるのが、S/C レシオと呼ばれる大豆とコーンの価格比だ。これが上昇すれば大豆作付が有利、下がればコーンが割高になるのでコーンを栽培した方が良いということになる。これを見ると、2月後半には2.5を大きく超えるまでに高くなっていたレシオが3月に入ってから急落、最近では2.0を大きく割り込んでいることが見て取れる。

大豆かコーンかのどちらを選択するかの分岐点がどの辺りにあるかは意見の分かれるところだが、大体2.0台前半あたりにあると考えていて良い。2.5を超えるというのは大豆栽培が有利だろうし、2.0を割り込めば誰もがコーン栽培を選択する。昨年コーン作付が記録的に増えたときも、1月から3月にかけてS/C レシオが2.0を大きく割り込んでいた。USDA が調査した時点では大豆栽培を決めていた農家の中にも、最近のレシオ急落を受けコーンに切り替えるところが相当数出てくるのではと予想する。



結局コーン需給は逼迫する

もっとも、仮に今後コーンの作付が大きく増えたとしても、コーン需給が逼迫することには変わりはないだろう。過去20年間において、作付意向と実際の作付の差は最大で384.4万エーカーあった。今回も同じだけコーンの作付が増え、2月の推定通りのイールドが実現したとしても、やはり在庫率は10%を割り込んでしまう。また、それだけコーン作付が増えるということは、2年連続、あるいは3年連続でコーンを栽培する農家が多くなるとわけで、連作によるイールドの低下も避けられないだろう。このままでは状況次第でコーンが8-10ドルまで急伸する恐れがあるのが、作付増によって7ドルあたりまでの上昇にとどまると考えるくらいでちょうど良いのではないだろうか。

- 実際の作付が384.4万エーカー増えた場合のコーン需給推定 -

イールドシナリオ	10年来最低	10年平均	前年並み	2月推定	10年来最高	07/08年
作付面積	89.9	89.9	89.9	89.9	89.9	93.6
収穫面積	82.7	82.7	82.7	82.7	82.7	86.5
イールド	129.3	142.3	151.1	154.9	160.4	151.1
期初在庫	1,438	1,438	1,438	1,438	1,438	1,304
生産	10,689	11,764	12,491	12,805	13,260	13,074
輸入	15	15	15	15	15	15
総供給量	12,142	13,217	13,944	14,258	14,713	14,393
飼料および残余	5,400	5,400	5,400	5,400	5,400	5,950
食用、種子、工業需要	5,470	5,470	5,470	5,470	5,470	4,555
- エタノール	4,100	4,100	4,100	4,100	4,100	3,200
国内消費	10,870	10,870	10,870	10,870	10,870	10,505
輸出	2,150	2,150	2,150	2,150	2,150	2,450
総消費量	13,020	13,020	13,020	13,020	13,020	12,955
期末在庫	878	197	924	1,238	1,693	1,438
在庫率	-6.74%	1.51%	7.10%	9.51%	13.00%	11.10%

出所:米農務省 単位:100万ブッシェル、100万エーカー、ブッシェル/エーカー

- 参考:過去20年間における作付意向調査時の推定と実際の作付との差 -

	意向調査の推定と実際の作付との差			実際の作付が推定を	
	平均	最小	最大	下回った年	上回った年
コーン	1,161	153	3,844	8回	12回
大豆	124	25	3,509	12回	8回

出所:米農務省 単位:1,000エーカー